

公認会計士のための

不正調査技術 短期修得講座

この度 ACFE では、公認会計士の皆様向けに、不正調査技術の短期修得講座を企画致しました。昨今の、監査の信頼を揺るがすような度重なる会計不祥事により、監査人はより強い態度で監査業務に臨むことが期待されています。本講座では、実際に不正調査を専門とする公認会計士、弁護士、そして行動科学の専門家を講師に迎え、具体的・実践的に講義致しますので、監査業務に携わる会計士の皆様に必要な「不正調査技術」を、効率よく短期間に集中して学んで頂けます。

講座は①不正の端緒の把握と職業的懐疑心、②会計不正の種類と制裁、証拠の収集・法的観点から、③不正実行者の心理・行動科学で解き明かす不正実行者の性質や特徴 という 3 カリキュラムで構成されています。

全てのカリキュラムで実例を取り上げ、ポイントを絞り込み解説します。

◆カリキュラム① 不正の端緒の把握と職業的懐疑心

公認会計士が監査業務を行うにあたり、不正の端緒を把握するための実践的対応の技術の習得を目的とします。特に不正リスク対応基準で求められる監査人の職業的懐疑心の保持・発揮・高めるという観点から、不正の端緒とは何かを明らかにし、過去の事例に基づき、監査計画立案時に財務諸表における不正の兆候を把握するための考え方、残高確認、実地棚卸及びその他監査手続実施時における職業的懐疑心の保持・発揮・高めるとは何を求められているのか、どのように考えるべきなのかについて具体的に解説します。

◆カリキュラム② 会計不正の種類と制裁、証拠の収集・法的観点から

不正の疑いの端緒をつかんだ場合、もしその不正が多額の粉飾であればもちろん、たとえ少額でも裏金作りの疑いがあった場合、その裏金の使い道や目的次第では、その企業に多額の損失を発生させる可能性もあります。この講座では、会計監査から把握できる不正の種類とその制裁の現状について解説します。また、不正の疑いを持った以上は、一定のエビデンスの収集により、少なくともその不正が存在する蓋然性が高いことを経営者に示し、本格的な調査を促す必要があります。かかるエビデンスの収集に当たり、法的な観点に照らし、できること、できないことを解説いたします。

◆カリキュラム③ 不正実行者の心理 行動科学で解き明かす不正実行者の性質や特徴

人はなぜ不正を犯すのか？なぜ不正に走るのか？その行動メカニズムを行動科学の分野から検証します。行動科学は、個人のマインド=心だけではなく、行動と環境との関係性とも繋がっています。本講座では、プロファイリングという技術を使用し、不正者の性質や特徴を行動科学的に分析します。また、実際に起きた事件を用いながら解説します。